

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101370		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす一番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208-1		
自己評価作成日	令和4年3月30日	評価結果市町村受理日	令和4年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我社の理念である、「花木」といっても桜・梅・桃など、それぞれ色も形も咲く時期も異なるように「人」も生きてきた「道」や「環境」がそれぞれ異なります。その「人」に様々な問題があっても、それを認め、助け合い尊敬する家族のような温かな雰囲気の中で暮らしていただけるように、お一人お一人の想いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では入居者一人ひとりを尊重し、家族の様な温かい雰囲気の中で生活が送れるよう支援に努めている。食事は毎食職員が手作りし、利用者の要望を反映させ、行事食やおやつをバラエティー豊かに工夫し利用者の楽しみへとつながるように取り組んでいる。利用者との関わりから状態の把握に努め、個人の思いを尊重し、その人に適したレクリエーション活動など日頃のケアに活かし、利用者の残存能力を引き出すことで、利用者の喜びや自信となっている。また、利用者の変化を見逃さないよう職員間で連携を図り、担当者話し合いながら対応している。電話や面会への対応、写真を添えての家族通信の郵送等で家族と利用者の関係継続の支援に努め家族の安心へとつながり信頼関係を築いている。(感染予防の為、書面・電話聞き取りにて評価施行)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を基にホームの理念を掲げているが、周知徹底が出来ていない。ユニット内での目標を毎月掲げて実践に繋げています。	理念を職員の目に留まる場所に掲示し共有している。各ユニットで担当職員が月間目標を立て、ユニット会議で振り返り、日々の実践につなげている。職員は利用者が温かい雰囲気の中で過ごせるように心がけ支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ禍で地域行事(地域の集い、小学校など)中止になり交流することができませんでした。	町内会に加入し、年2回職員が清掃活動に参加している。コロナ禍で町内会行事が殆ど中止となり、地域との交流は困難な状況にあった。敷地内の散歩時に地域住民と出会えば挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、交流が持てておらず、地域の方に理解や支援の方法をお伝えする場を作れていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議を開催することが出来ず、サービスの向上に活かす事ができませんでした。	コロナ感染対策のため、会議は中止としているが、2ヶ月毎に管理者が集まって会議を開催し、活動報告など情報共有を行っている。作成した議事録は家族が面会時などに閲覧できるように配置している。	
5	(4)	○市町村との連携 2022/3/31	ホームの課題など岡山市事業指導課や岡山市東区地域包括支援センターに電話で相談をして指導を受けています。	管理者やケアマネが窓口となり、電話などで相談事や連絡を行い、市の担当者と連携を図っている。生活保護者のケアプランの送付や保健所への自立支援の申請などで相互協力の体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応しています。	年4回虐待・身体拘束防止委員会を開催している。研修後、職員は研修報告書を提出し、管理者は理解度を把握し声かけを行っている。毎月の会議や随時に話し合い、事例検討をしている。帰宅願望のある人には散歩をしたり、家族の声を聴いて落ち着く人には電話をかける等で対応している。また、家族へ面会の依頼を行うなど対応を工夫し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束・虐待防止の研修や会議を行い、適切なケアが出来るように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、成年後見制度を利用された方がおられ活用できるように支援ができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基に入退去時には説明を行い、入居後も定期的に連絡を入れて不安・疑問の解消に取り組んでいます。入居時には要望書を渡し、どんな事でも伝えてもらえるように取り組んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に要望書をお渡ししたり、面会時にご意見やご要望を伺い、ご意見があればその都度に反映出来るように務めています。	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは電話や面会などで意見を聴いている。把握した意見や要望には迅速な対応を心がけている。食事への要望があり行事の中で反映させている。パンが食べたいとの要望から安全に配慮したパンを購入し、ほとんどの人がパンを3個食べ、「また(企画)してね」と言われる人もいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議や普段のコミュニケーションの中から意見や提案を聴いています。上司に指示をもらいながら解決・反映できるように取り組んでいます。不十分です。	ユニット会議や随時に職員の意見を聴いている。職員の意見から入浴の支援が充分行えるように勤務調整を行い反映させている。管理者は年1回の個人面談以外にも個々に職員と話をしており、利用者への対応についての思いや相談に対して適切に助言を行い、不安解消につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や取得後の資格手当で、資格報奨金で給与に反映しています。向上心に差があるため環境作りが不十分です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを掲示したり定期的な職場内研修への参加を促したりしています。今年度は、適正に応じた研修への参加の働きかけが不十分でした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内で管理者は管理者会議で意見交換などが行っていますが、職員は他の事業所と交流が少なく、質の向上に繋がれず不十分でした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシート、ケアプラン、ご家族の想いを職員間で共有し、日常生活の言動の変化を記録して、毎日の申し送り時などに話し合い、安心して生活できるように環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時にご家族の想いをしっかりと伺い、必要な支援を見極めて細目に伝えながら信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に、できるだけ多くの情報を伺い、ご本人とご家族の想いに沿ったケアプランを作成して支援・環境づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、双方が助け合いながら行い、常に感謝の気持ちをお伝えし信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度、家族通信を写真と共に送付し近況報告を行ったり、入居者様の状況に応じて連絡をして面会に来ていただき協力して支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡などを行い関係が途切れないように努めています。ご本人が出来ない場合は、職員が代わりに行って関係継続の支援をしています。	2か月毎に「家族通信」として近況を綴った手書きの手紙と笑顔の写真を郵送し、家族から「写真を見て安心した」との声が得られている。コロナの感染状況に応じて家族や友人との面会やWeb面会を行っている。利用者の状態により事業所から面会を促すこともある。友人からの架電・家族への架電の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるようにそれぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話題を話しながら孤独にならないように支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも連絡下さる様、ご家族にお伝えし、相談などに対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個々に合った声掛けをし、訴えが難しい方でも今までの生活やご家族の情報を基に、ご本人の希望に添える様に努めています。	入浴時など1対1で話ができる時などに思いや意向を聴き、把握に努めている。把握した情報は支援記録や連絡ノートで情報共有し、連携を図って日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や普段の会話の中から色々な情報を拾い上げスタッフ間で共有し、個々に合った対応ができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の中で、入居者様、一人一人に合わせた過ごしやすい空間を作り、入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場や状態に応じて、その都度、話し合い状態に合った計画を作成して、それに基づき介護を行っています。	利用者と家族の思いを把握し、生活の中で楽しみ事が見つけられることを大切に、個々の能力に応じた援助内容で介護計画を作成している。計画作成者と担当職員が話し合い、利用者一人ひとりに適したレクリエーションなどを計画に反映させている。モニタリングを3ヶ月毎に、見直しを6ヶ月毎に行い、状態変化に応じてその都度柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそった一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望に対して、ご本人・ご家族のニーズに対応出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアの来所。移動図書館の利用を以前から計画しているが、新型コロナ禍の為、再度検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者が納得のいくように支援しています。	入居時に家族の希望を聴き、納得の得られたかかりつけ医と連携を図っている。2週間に1回協力医の往診があり、毎週歯科の往診がある。夜間・緊急時は主治医と看護師に連絡し指示に従い、提携病院に受診するなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化を看護師に報告・相談して適切な対応ができるよう情報共有し、支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医と連携を取りながら、治療が終わり次第出来る限り早期退院が出来るように病院との連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を見ながら医師・看護師に相談し方針を決めつつ、ご本人・ご家族の希望に出来るだけ添えるように取り組んでいます。	本人や家族の意向を踏まえ、入居者の状態に応じて医師や看護師と連携を図っている。随時、家族に説明し、今後の方針の確認を行い、入院や看取りなど家族の意向を尊重した支援に取り組んでいる。運営推進会議で看取りについて事例を挙げて情報共有を行い、話し合うこともあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADLや酸素濃度測定器の導入を行い、急変時の対応は、研修・勉強会で対応出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域の協力体制が取れるようにしています。	年2回夜間想定火災避難訓練を実施している。水害・土砂災害も含めた避難訓練では、避難方法・経路と場所の確認を行っている。近隣の事業所と協力体制を築き、備蓄は同法人の他事業所に確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛け・傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めています。	入社時にプライバシーの保護などの研修を実施している。職員は言葉遣いに留意し、自分の親に対する思いと同じ思いで、利用者の立場になり、考えて支援することを大切にしている。入浴や排泄時などはできる限り同性職員が対応し、排泄の声かけは小声で行い、パッド類は人目につかないよう工夫し、羞恥心やプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがあり、その事柄を他の職員と共有し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場で1日の流れは、決まっていますが、一人一人の生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問美容を活用し髪を整えたり入浴して清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう支援しています。	毎食職員が手作りし、パン食やお弁当、ひな祭りや七夕などの行事食を提供している。利用者と一緒にホットケーキ作りをしたり、おやつメニューの工夫で食事を楽しむ支援をしている。利用者は、食後に、洗浄後の食器やお盆を拭くなど出来る事を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量のチェックを行い一人一人に合った飲食量が確保できるよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回、歯科往診にて口腔清潔を保っています。一人一人の状態に応じた支援をしています。食事前には、嚥下体操を行い誤嚥予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをし、一人一人の人格を尊重しながら支援しています。	排泄チェック表をもとに声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。夜間は個々に応じてポータブルトイレなどを使用している。1日3回食前に体操を行い、筋力低下を予防し、トイレでの排泄を維持する工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・青汁を取り入れて水分の摂取、栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を午前と午後にして、ご希望の時間に入浴できるよう支援し、又、入浴剤を使用して温泉気分を楽しんでもらっています。	週2～3回入浴支援をしている。利用者の要望に添えるように、午前・午後と入浴の時間を設けている。入浴剤の使用で温泉気分を味わってもらい、菖蒲や柚子を浴槽に入れて季節感を大切にする工夫をしている。入浴を嫌がられる人には職員や時間を変更し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしています。一人一人の体調を考慮し安眠や休息の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにして、服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず飲まれるまで側で支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍のために、車中ドライブで景色を楽しんでいただいています。	日頃から戸外に出て外気浴をしたり、近隣にあるドッグランを散歩している。3月に花見のためドライブへ出かけ車中から眺めたり、11月に近郊や一本松へドライブし紅葉や景色を眺め、おしゃべりを楽しむ事ができた。外気に触れると利用者は「気持ちいいなあ」と声に出して喜ばれる。	コロナ禍の状況に応じて、自由な暮らしや家族とのつながりを大切に、利用者の思いに寄り添った外出支援が出来る日が来ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人との電話やオンライン面会などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、季節感のある飾りを取り入れています。	明るい陽射しが差し込むリビングには季節に応じた利用者の作品などが飾られている。また、利用者がくつろげるようにソファが設置され家庭的な雰囲気となっている。共用空間は居心地よく過ごせるように配慮し、毎日清掃と換気を行い、利用者も一緒に手すりの清掃など出来る事を一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD等を流してソファを配置して自由に座っていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物を持って来ていただき、自宅に近い雰囲気です。居心地よく生活が出来るように工夫しています。	居室はベッド・床頭台・クローゼットが備え付けられている。利用者は自宅を使い慣れた家具や品々を持ち込み、個々に応じた居室作りで、居心地の良さを配慮している。一人で見たいと居室にテレビを持ち込んでいる人もいます。利用者は居室の清掃を職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分は手すりが設置されて歩行が不安定な方でも安心して移動が出来るようになっています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	集団生活の為、コロナ感染予防対策を考えると戸外の行きたいところへ外出支援は難しいことがある。	利用者様の要望に応えられるように外出支援をする。	コロナ感染状況を踏まえながら感染予防を行い、外出が出来るように支援をする。	12か月
2	64	馴染みの方や地域の方の高齢化により来て頂くことが困難になってきている。	誰もが訪ねて来て頂ける雰囲気作りをする。	ホームでの行事案内など配布し、気兼ねなく来て頂けるよう働きかける。	12か月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()